

北播磨地域ビジョン委員会「生活分科会」 第6回記録

1 日時：令和2年11月12日（木） 18：00～19：15

2 場所：兵庫県社総合庁舎本館入札室

3 参加者：生活分科会メンバー6名出席、4名欠席

4 活動計画の具体的実践について

ア 災害弱者を知る勉強会

別紙により説明があった。※PDF（勉強会と神戸新聞表・裏）添付。

勉強会の成果を寸劇に発展させる。

高齢者が災害の時にどういう支援を求めているかなど、生活分科会メンバーがPDF記載のそれぞれの項目について調べて、12月20日まで報告する。

可能な方は取り急ぎ11月19日までに報告願いたい。

イ 防災講座の開催

別紙により説明があった。※PDF（講座表・裏）添付。

来年1月17日（日）にイオン社店内で、北播磨県民局がひょうご安全の日の行事を開催されるので、ビジョン委員も参画する。ワークショップのようなことを行う。その中で防災クイズをやりたいので、生活分科会メンバーは、ワークショップの形と防災クイズを考えて、12月4日までに報告する。ワークショップでは、前期でやられたこともやっていく。幟を立てたり北歩くんの出演も行う。次回内容検討。

※これを、生活分科会としての具体的活動のひとつとして行う。

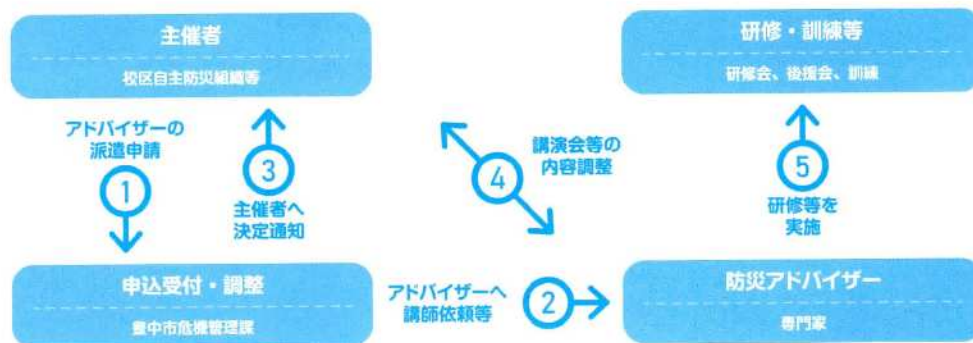
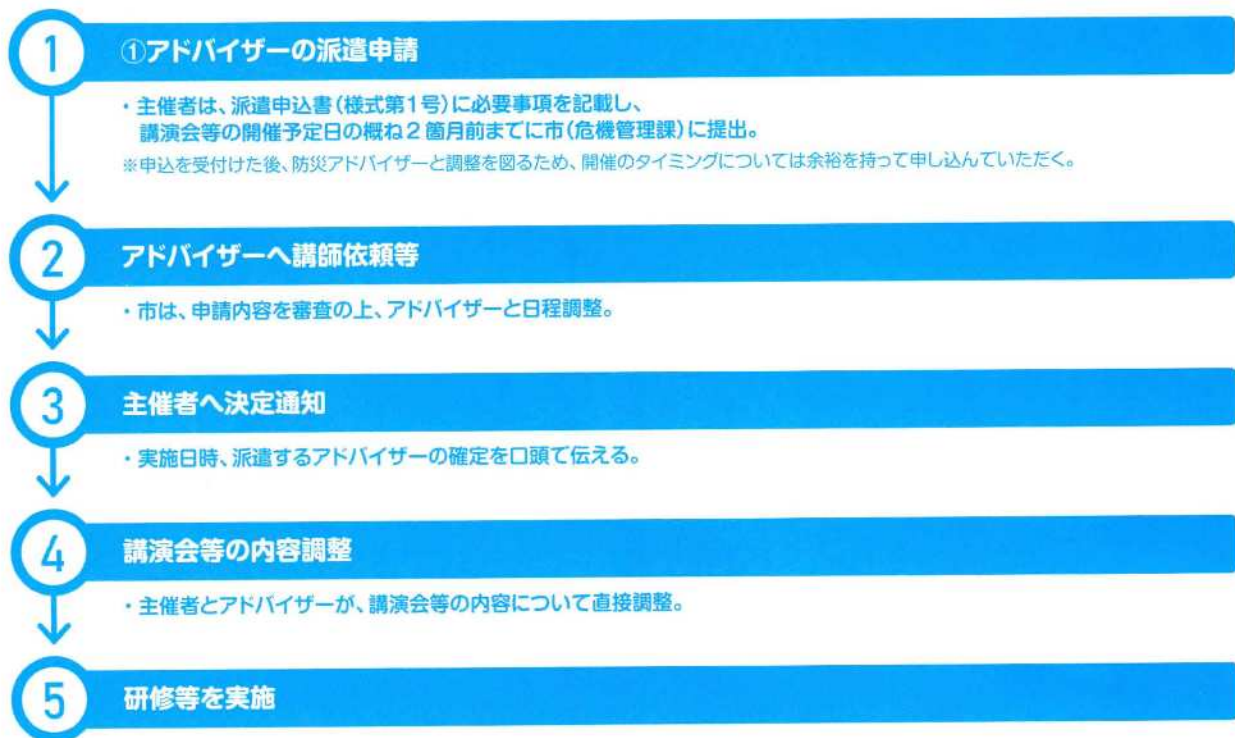
ウ その他

参考：PDF 日経新聞、PDF 神戸新聞、PDF ぼうさい夏号

5 次回開催予定 12月10日（木） 18時～、県民局入札室

6 閉会

申請から実施までのフロー



ぼうさい夏号 [No.99]

令和2年8月21日発行 [季刊]
<http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/r02.html>



● 編集・発行

内閣府(防災担当)普及啓発・連携参事官室
 〒100-8914
 東京都千代田区永田町 1-6-1
 中央合同庁舎第8号館
 TEL:03-5253-2111 (大代表)
 FAX:03-3581-7510
 URL:<http://www.bousai.go.jp>



● 編集協力・デザイン

株式会社エーフォース
 〒160-0023
 東京都新宿区西新宿 7-18-13
 日祥ビル 1F
 TEL:03-4530-4649
 FAX:03-6332-8870
 URL:<https://aforce.co.jp/>

● 印刷・製本

敷島印刷株式会社
 printed in Japan

● 編集後記

今号の特集は、「日本の水害と土砂災害」について特集いたしました。水害に関する日頃の備えや、避難についての情報、そして記憶にも新しい台風被害時の対応等についてです。「ぼうさい」の中で紹介した内容以外にも詳しい内容が内閣府が公表しているパンフレット等にも記載されておりますのでそちらもぜひご一読いただきたいと思います。また、防災意識を高めていただくため、デザインも一新させていただきました。これからは皆様にとってわかりやすい誌面にしたいと思いますので、ご意見・ご感想お待ちしております。

ご意見・ご感想を、内閣府(防災担当)広報誌「ぼうさい」担当宛で、はがき、FAXにてお寄せください。

《防災講座開催の要領》素案

1 趣旨

防災や災害についての正しい知識を習得することによって、災害時の様々な局面において避難活動が困難な災害弱者を支える適切な行動が取れるような防災体制の確立をめざして、防災講座を開催する。

2 内容

テーマごとに防災クイズの問答から防災災害避難の問題点を解説していく。

テーマ=自主防災、備蓄、避難、避難所、地震、風水害、防災マップ、防災施設の見学・体験、気象情報、ライフライン。災害弱者を視座に置くこと。

3 対象者

学校、地域、職場、親子、高齢者、障害者

1/00

4 講師

ひょうご安全の日推進事業実施主体

防災研究機関・学校・大学・企業

縣市町防災教育担当部署

自主防災組織

気象台

防災リーダー

防災クイズの例 (HP から)

NPO 防災白熱アカデミーの「防災クイズ初級編・中級編・上級編」

こくみん共済の「親子で学べる防災クイズ」

地震の窓口の「親子でできる防災クイズ」

東京消防庁の「みんなの防災クイズ」

防災首都圏ネットの「防災クイズ」

松戸市の「防災〇×クイズ」

みんなのBCPの「大人のための防災クイズ」

NHKの「“もしも”に備える防災クイズ」

Appleweatherの「防災クイズ～知っててよかった～」

10月19日神戸新聞からの記事

防災新聞+

行政から発信される情報

5～3日前

台風予報＝台風が発生

2日前

☆大雨注意報・洪水注意報

☆台風に関する今後の見通し

台風が近づいて雨や風がだんだん強くなる。

1日前

☆大雨警報・洪水警報

半日前

水防団待機水位到達

氾濫注意水位到達

雨が集まって、川の水がだんだん増える。

5時間

避難判断水位到達⇒氾濫警戒情報発表

レベル3

☆避難準備・高齢者・障害者等

避難開始を発令

川の水がいっぱいであふれそう！

3時間前

氾濫危険水位到達⇒氾濫危険情報発表

レベル4

☆避難勧告または避難・指示（緊急）を発令

0時間

氾濫が発生

レベル 5

☆氾濫発生情報

川の水が氾濫

《避難勧告などのタイミングは、市町村の依り異なる》

○災害弱者を知る勉強会 資料 (2020.11.12 生活分科会)

●災害弱者対象：高齢者（概ね80歳以上とする）に焦点を当てる。

⇒80歳以上の高齢者のなかでも、耳の不自由な方、足の不自由な方…様々な方がいるため、支援の仕方もそれぞれ違ってくる。範囲を広げすぎると焦点が定まらないため、80歳以上のどのような高齢者に焦点を当てるのか、ターゲットをより絞る必要がある。

●事業の目的：専門家ではない一般人の目線から、ターゲットにとって必要な支援とは何なのか、どのように支援すればよいかを学び、その知識を寸劇に活かす。

●方法：メンバーで分担してそれぞれの項目について調べ、調べてきたことを生活分科会にて勉強会を実施し、共有する。

*ターゲットがどんなことに恐怖や不安、心配事を抱えているかを探る。

①避難について

- ・避難に関する用語（避難指示、避難勧告、警報の5段階…など）
- ・避難のタイミングはいつか。
- ・高齢者の方と一緒にどう避難すればよいか、上手な対応の仕方とは。安全に避難するコツとは。

②避難所での過ごし方

- ・避難所でのよい環境づくりとは。
- ・避難所で困っていることとは。

③日頃からできる防災

- ・普段からできる防災とは何か。（防災訓練、ご近所との助け合い）
- ・高齢者が備えておきたい物や、あったら便利な物・グッズは何か。

有症者の確認、収容人数… コロナ対策考慮 避難所運営学ぶ

三木の公民館で住民研修



段ボールベッドを完成させる参加者。別所町公民館

新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営研修が9日、三木市別所町西蓮田の別所町公民館で開かれた。参加した住民は感染症対策を考慮した収容人数の目安を学んだほか、間仕切りを組み立てる簡易パーティションの設置を体験した。
(篠原拓真)

別所まちづくり協議会の主催。例年5、6月に防災訓練をするが、今年と同感染症で延期に。だが、「コロナ禍でも災害に備えてや

るべきだ」と判断し、各区長や民生児童委員ら41人が集まった。

研修では、市が9月末に作成した「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営マニュアル」について、危機管理課の本岡忠明課長が解説。冒頭に「避難所での『3密』を避けてほしい」と訴えたほか、避難の必要性を判断し「親戚や

知人家、車中泊など、避難所以外の場所に逃げる『分散避難』も検討してほしい」と求めた。

収容人員に関しては、1人当たりの居住面積を3平方メートルと想定。共有部分なども含む必要面積は「3人世帯で20平方メートル」との目安を示した。避難者の受け入れは、建物入り口に温度チェッカー窓口を設け、問診と非接触型体温計での検温をすることで「有症者」「一般避難者を分ける」とした。

その後、住民らは同課職員の指導で、段ボールベッドと簡易パーティションの設置に挑戦した。自治会役員ら男性66は「ベッドもパーティションも簡単に作れた。事前に知っておくと仲間も手伝いやすかった」と話していた。

災害切迫どうつ発信

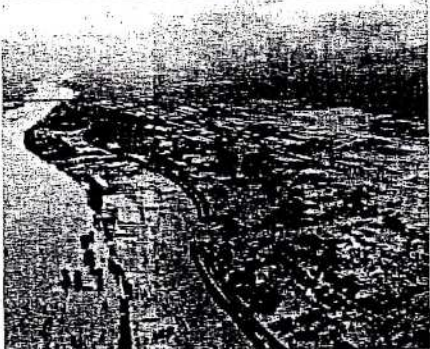
「避難情報」表現見直し議論

災害時に自治体が発表する「避難情報」の見直し作業が難題に直面している。災害が切迫し避難が手遅れな状況で命を守るための行動を強調すると、逆に「それまで避難しなくてよい」と受けとられかねないシナマがある。気象庁などが出す「防災気象情報」との違いも不明瞭で、一部で「廃止論」まで出ている。

「まだ間に合う」誤認恐れ

政府の中央防災会議の作業部会で見直しが議論されているのは、災害がすでに発生したか、まもなく発生しそうな状況で市区町村が発表する「災害発生情報」。新たな名称を検討中だが、5段階の警戒レベルで最も高いレベル5に該当し、逃げ遅れた住民に命を守るための最善の行動を求め、すでに避難所に向かうのは危険で、水害なら少しでも高い場所に移動すべきだが、命の保証はなく手遅れの場合もある。「命を守る」という要素を入れると「避難開始レベル5」待ちになさず「行動を諦めてはいけな

レベルと避難情報、防災気象情報の関係		主な防災気象情報(気象庁など)
1	避難情報(市区町村) 現在	早期注意情報
2		大雨注意報、洪水注意報、氾濫注意情報
3	避難準備等開始	大雨警報、洪水警報、氾濫警戒情報
4	避難勧告	土砂災害警戒情報、高潮警報、高潮特別警報、氾濫危険情報
5	災害発生情報	大雨特別警報、氾濫発生情報



千曲川の堤防が決壊して大規模浸水した長野市の市街地(2019年10月)

議論が紛糾する背景にはレベル5の避難情報が抱えるジレンマがある。本来はレベル4以前の段階で避難を完了すべきだ。レベル5の避難情報に高い場所への移動など安全確保を求める内容を盛り込むと「レベル3や4で避難しなくても間に合う」との誤解を招きかねない。一方で切迫した状況でも諦めずに命を守るよう呼び掛ける必要がある。ある委員は「絶対にこれ、というのがない難しい問題」と話す。

レベル5の避難情報を自治体が適切なタイミングで出せるかも課題だ。福島県によると、19年10月の台風19号の際、気象庁は県内の50市町村に大雨特別警報を発表したが、同じレベル5の災害発生情報を出した自治体は数自治体にとどまった。市内で河川氾濫があった伊達市の担当者は「当時は現場の状況を把握するのが難しく、発表を見送った」と話す。

避難情報を見直し、逃げ遅れによる死者が相次いだ2019年の台風被害を教訓に検討が始まった。違いが分かっていくと指摘されてきたレベル4の「避難勧告」と「避難指示(緊急)」は一本化を決めた。レベル5の新名称についても、年末にかけて最終的な結論を目指している。

レベル5の避難情報を自治体が適切なタイミングで出せるかも課題だ。福島県によると、19年10月の台風19号の際、気象庁は県内の50市町村に大雨特別警報を発表したが、同じレベル5の災害発生情報を出した自治体は数自治体にとどまった。市内で河川氾濫があった伊達市の担当者は「当時は現場の状況を把握するのが難しく、発表を見送った」と話す。

近年災害で何度も見直し

市区町村が発表する避難情報は、1961年の災害対策基本法制定で法制化された。大規模災害を教訓に近年、見直しが続いてきた。2004年の新潟・福島豪雨では犠牲者の多くが高齢者が占め、「避難準備情報」が導入される契機となった。避難勧告や指示に先立ち、避難に時間がかかる高齢者などに早期の避難を呼び掛けるものだ。16年8月の台風10号で避難準備が導入された。国は19年に切迫度を数字で示す5段階の警戒レベルを導入し、最も高いレベル5に「災害発生情報」を新設した。

117 経

「住民が避難するタイミングが、専門家でない自治体任せになっていることがそもそも問題だ」と、避難情報の「廃止論」を唱える東洋大の及川康教授(災害社会学)はこう指摘する。

内閣府は自治体向けのガイドラインで、発表基準を高たせば空振りをお

と改めた。18年7月の西日本豪雨では死者・行方不明者が200人を超え、再び逃げ遅れが問題となった。国は19年に切迫度を数字で示す5段階の警戒レベルを導入し、最も高いレベル5に「災害発生情報」を新設した。